



作：いしいしんじ 絵：かけやまなおこ

第6話 トリボンから「おめでとう」

図書館に住むトリボンは、6年生のみんなが大好きでした。

なにしろ、入学したての1年の頃からリクエストはいっぱいくれるし（トリボンのひな「コトリボン」のえさは本のリクエスト用紙です）、図書館の本をいっぱい借りては返し、部屋のなかをいつも、風の吹きとおる雑木林みたいにきもちよく保っておいてくれます。

なにより、6年生には本が好きなひとが多い。それだけでもう、トリボンたちは、6年生のことが好きで好きでたまりませんでした。

そんな6年生が、もうすぐ卒業をむかえます。

トリボンたちの心境はちょっと複雑です。おめでとうのきもち、がんばって、と送りだしてあげたいきものは、もちろん大文字山くらい大きい。けれど、もう図書館で会えない切なさ、リクエストを書いてくる字が読めないさみしさも、こころのなかにじんわり湧いてくるのです。

「それに、あんな本好きの6年のみんなに、この一年のあいだ、自由に図書館に来てもらえたかった」

雨風にさらされると危険なので（半分は本ですから）、図書館からほとんど外へ出ないトリボンですが、とどけられる雑誌や新聞で、この一年なにがあったかは、おとなたちと同じくらい知っています。

誰もいない教室。ことばのない給食、足音のひびかないグラウンド。

そんななかでも、錦林小学校のみんなは、元気に学校にやってきました。マスクごしにでも笑、歌い、走り、それぞれの曜日に図書館にも来て、目を輝かせてページをめくってくれました。

「みんなに、なにか御礼をしたいな。図書館とか、本にまつわることで」

放課後の図書館で、トリボンは、なかまのトリボンたちに提案しました。メガネトリボン、リーゼントトリボン、筋肉ムキムキトリボンらが、ぱさっ、ぱさっ、ページのつばさを羽ばたかせて賛成します。

「ナニーカ、メモリーニ、ノコルモノーガ、イート、オモイマッス」

と、アメリカントリボンが巻き舌でいいました。

「メモリー、つまり、思い出。それいいね」

とトリボンはうなずき、ホワイトボード
に「思い出」と書くと、

「たとえば、どんなのかなあ」

「エート、タトエバ、ロックンロール、
ト、ヨサコイ、ミックスシテ、オドルノ
ハ？」

トリボンは、ハア、とためいきをつき、
「それ、運動会でやったでしょ、『ロック
ンソーラン』」

つぎに、渋い和紙でできた長老のじい

トリボンが勢いよく手をあげ、

「6年、みんなが、ニコニコ、笑顔になると、よいのう」

「うんうん、それは大切だね」

トリボンはホワイトボードに「笑顔」と書いて、

「なにがいいかなあ」

「わしらみんなで、芝居をぶつのはどうじゃ。狂言なんか、いいぞ。マジ笑えるぞ」

トリボンはまた、ハアア、とためいきをつき、

「それ、もう去年やったって！　『柿山伏』でしょ」

つづいて、本のページをスカートみたいに開いたアイドルトリボンが、長いまつげをパチパチまたかせながら、

「あのですねえ～、6年生のみなさん、ひとりひとりに、大切なものを手作りして、お持ち帰りいただけたら、いいんじゃないかなあ～、な～んて思うんですけどお～」

「お、いいねえ」

トリボンはホワイトボードにさらさら「大切な物」「手作り」と書きながら、

「どんなものがいいだろう」

「たとえば～、こんなの、どうですかあ～」

アイドルトリボンは目をきらきら輝かせ、

「カワイイ小箱のねっ、ふたをあけるんですっ。すると、なんとそこから、素敵なメロディーが流れだすんです～！　ふんふふーん、ふふふふふーん♪」

「やってる、それ、6年のみんな、今やってるところ！　『オルゴール作り』！」

トリボンはページのつばさでホワイトボードをバシバシ叩いていました。まわりに集まつた小さなコトリボンたちは、つばさを打ち合わせて笑っています。

窓からさっと明るい夕陽がさしました。同時にあたたかな風が吹き込んで、机の上のリクエスト用紙と小さなコトリボンたちを、ふわりふわりと空中に舞いあげました。



黄金色の春風に乗って、コトリボンと用紙がいりまじり、天井近くを楽しげに、あちらこちらへ飛び交っています。しばらく見あげていたトリボンたちは、はっと息をのみました。顔を合わせ、同時にうなずきます。

「うん、これでいこう！」



三月のある朝、その6年生は、元気に正門をくぐりました。顔の下半分は、マスクごしなのでよく見えないけれど、元気かそうでないかは、その声からはっきりとわかります。

「おはよう」

「おはようございます！」

「おはよう、あったかいね」

「あ、おはよう！」

上履きにはきかえ、階段をのぼります。6年間、のぼりおりしたこの階段。入学したてのうちは、登山みたいにでっかく、そびえ立ってみえたけれど、いまはもう、鴨川の土手を駆けあがるときみたいに、軽々とした足どりでのぼっていきます。あと何回、のぼれるんやろ。ふと浮かんだそんな考えを、頭を振ってふりはらい、6年生は、3階の廊下につきました。

おや、人だかりができています。教室から廊下をはさんだ、窓際の壁の前。

「どうしたん」

声をかけると、

「あ、来てみ。こっちこっち」

友達が手招きします。ランドセルをショットまま、人だかりのすきまから、壁の前をのぞきます。小ぶりなポスターが貼られています。とても上手とはいえない。けれどもていねいな手書きの字で、こんなことが書かれてあります。

6年生の みなさんへ

卒ぎょう ほんとに おめでとな 図書館 いっぱい つか 使ってくれて ありがとな

これからも 本 いっぱい読んで たのしい チュー学生になってください

空想の「空」を じゅうに 鳥みたいに 飛びまわってください

図書館も 本も いつまでも みんなのなかまです ずっといっしょです

これからもよろしくね

ポスターのまわりを、なにか小さなものが、ぶきっちょに、ハタハタ羽ばたいています。

「鳥だ」

「え、本なんちゃうん」

「ほら、これ、リクエストボックスにかいてあった」

6年生は大声で、

「コトリボン！」

そうそう、とみんなうなずきます。コトリボン、ほんまにおったんや。羽ばたいているその翼は、ぜんぶ、見覚えのある本です。入学してから卒業まで、読んでもらったり、はじめて自分で借りたり、おぼえたての漢字を見つけたり、遊びも忘れて読みふけったり、ほんとうに、たくさん本を、6年生のみんなは読んできたのです。

「しろくまのパンツ」「おまえ うまそうだな」「ぼくのしっぽはどれ?」「わすれんぼうのサンタさん」「メアリー・アリス、いま、なんじ?」「スイミー」「しりとりのだいすきなおうさま」「そらまめくんのベッド」「きょだいな きょだいな」「にゃーご」「ともだちひきとりや」「しろい やさしい ぞうのはなし」「じごくの そうべえ」「はいしゃのチューセンせい」「どろぼうがっこう」「くものすおやぶん とりものちょう」「ぶたのたね」「はらぺこあおむし」「ずっとずっと だいすきだよ」「ジャイアント ジャムサンド」「オオカミのごちそう」「ともだちや」「シナの5にんきょうだい」「パパ、お月さまとて!」「もうぬげない」「せんたくかあちゃん」「こいぬをつれたかりうど」「ちきゅうをほる」「オニじゃないよ おにぎりだよ」「こんとあき」「ロメオとジュリエット」「そんごくうだいかつやく」「しごとば」「フレデリック」「すてきな三人ぐみ」「へっこきよめどん」「つくもがみ」「すすめ! かいてんずし」「わたしとわたし」「メリークリスマス おおかみさん」「たこやきのたこさぶろう」「あいたくなっちまたよ」「オニのサラリーマン」「じごく」「シニガミさん」「たなからぼたもち」「ざんねんないきもの事典」「うちゅうはきみのすぐそばに」「あきちゃった」「怪盗クイーン」「はつてんじん」「かぜ ビューン」「ねずみのつきめくり」「たのきゅう」「アオバズクの森」「怪盗レッド」「きみがしらない ひみつの三人」「勇気」「デルトラクエスト」「それしかないわけないでしょう」

ほかにも、いっぱい！ とても数えきれないほどのコトリボンが、次から次へと飛びあがり、6年生たちのまわりを飛び交っています。それだけでなく、トリボン、じいトリボンやアイドルトリボンたちもいっしょです。本が羽ばたき、巻きおくる風に、6年のみんな、うれしげに目を細めています。

ばさっ、ばさっ、ばさっ！

一羽のコトリボンが、力強くはばたき、開けはなした窓から校舎の外へ飛びだしました。また一羽、さらにもう一羽。コトリボン、トリボンたちは大きく翼をひろげて、真っ青な春の空へ

つぎつぎに羽ばたいていきます。そして、はじめて味わう、ほんものの空の広さをたしかめるように、一度、二度、空中に輪をえがくと、いっそう力強く翼を羽ばたかせ、春のやわらかな陽ざしのなかへ、一羽ずつ、ふわりふわりと溶けこんでいきました。

6年生のみんな、窓にとりすがって見あげています。

トリボンたちは、どこへいったのでしょうか。みんなの家？ それとも、あたらしく通う中学校の図書館？

さあ、どこでしょうね。ただひとつ、まちがいないことがあります。トリボンは、本たちは、いつまでもみんなの胸のなかにいます。錦林小学校であった、一冊いっさつの本のおもしろさは、ずっとずっと、いつでもみんなといっしょです。

これから、また新しい、おもしろい本とあたら、少しのあいだ目をつぶり、胸の奥にじっと耳をかたむけてみてください。そのうちきっと、パサパサ、パサパサ、ふしぎな羽ばたきの音がきこえてきます。

みんなの胸のトリボンが、新しい本を歓迎し、こころをこめて拍手をおくっているのです。

もうすぐ卒業、おめでとう！ トリボンと図書館のぜんぶの本より



せいさく としょかんかつようぶかい
(制作；図書館活用部会)